

平成21年6月9日、東京大学本郷キャンパス安田講堂にて、昨年御逝去された戸塚洋二先生の追悼シンポジウムが開催されました。東京大学および東京大学宇宙線研究所が主催し、高エネルギー加速器研究機構、素粒子物理国際研究センター、日本物理学会との共催として催されました。

戸塚先生は、ご専門であったニュートリノの研究だけに留まらず、関連する様々な分野への面識・見識が深く、平日の開催であったにも拘わらずシンポジウムの客席には多数のそうそうたる顔ぶれが並びました。特に、講演者に名を連ねていたノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊（左中央写真）先生だけではなく、昨年度の実験者である小林誠先生までがご来場くださっていたのは印象深いものでした。

シンポジウムは濱田純一東京大学総長（右上写真）の挨拶に始まり、戸塚先生の師匠である小柴先生からのメモリアルトーク、共に研究活動を行ってきたペンシルベニア大学のジーン・バイヤー先生（右下写真）、宇宙線研究所の鈴木洋一郎先生からのカミオカンデ・スーパーカミオカンデ

と戸塚先生の足跡など、全てをここでご紹介するのが難しいほど非常に多くの思い出がたくさんの方達から語られました。講演資料の中には、戸塚先生の作業中の写真や、登山に行った時の写真など思い出深いものが含まれており、戸塚先生と縁の深い方には懐かしさに胸を打たれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。さらには、今ではなかなか眼にすることすら難しくなった、カミオカンデやそれ以前の実験当時の資料なども織り交ぜられており、戸塚先生を追悼するシンポジウムであるとともに、素粒子・原子核・宇宙分野実験の歴史的を振り返る上でも大変貴重なシンポジウムであったと言えるでしょう。若い研究者の方にとっては極めて刺激的な内容となっていました。



偉大な指導者であり物理学者であった戸塚先生が御逝去されたことは、我々にとって大変な損失でしたが、戸塚先生が残していった意思は多くの研究者に受け継がれ、そしてそれはさらに若い世代に引き継がれているのだと感じさせてくれるシンポジウムとなりました。このような素晴らしいシンポジウムが開催出来たことは、関係者のみならずご来場くださった多くの皆様からの支えがあったからこそです。ここで改めて感謝を申し上げます。皆様本当にありがとうございました。そして今一度、戸塚洋二先生のご冥福を心よりお祈りします。

ここで改めて感謝を申し上げます。皆様本当にありがとうございました。そして今一度、戸塚洋二先生のご冥福を心よりお祈りします。

